

むすぶ

弥彦村社会教育だより

令和3年10月25日 NO.22
弥彦村社会教育委員の会

《気持ち良いあいさつが交わされる村に！》

弥彦村社会教育委員の会では、「弥彦村あいさつ運動」を展開しています。目指す姿は、
①家の中で明るいあいさつを交わす村 ②地域の中で当たり前にあいさつを交わす村
③弥彦を訪れる人が気持ちの良いあいさつが交わされていると感じる村 です。5年計画を立てて、運動を推進して行きます。

今年度は、手始めとして、「あいさつ運動スローガンコンクール」を8月に実施しました。29名の皆さんから応募があり、委員の会で厳正に審査を行った結果、6点を入賞作品に選出しました。以下にお示しするとともに、11月27日（土）に行われる「地域づくり交流会」の中で、表彰式を行います。

あいさつ運動スローガン入賞作品（敬称略）

- | | | |
|---------|---------------------------|----------|
| <村長賞> | 弥彦村 みんなで仲良く こんにちは | (柳川 恵梨華) |
| <教育長賞> | 明るいあいさつみんなが笑顔 広がるつながる弥彦の輪 | (渡辺 昊大) |
| <公民館長賞> | あいさつでつなげよう 人との絆 地域の輪 弥彦村 | (木戸 知佳子) |
| <優良賞> | 「ありがとう」言って言われて みんながえがお | (船山 凜太郎) |
| <優良賞> | 挨拶はあなたと私の合言葉 | (内藤 瑠南) |
| <優良賞> | 挨拶は 幸せつなぐ 心と心 | (山崎 鉄也) |

そして、このスローガンを基に、11月を「あいさつ運動強調月間」に位置づけました。入賞作品の内3点を「ポスター」にして「あいさつ運動チラシ」とともに村内全戸に配付し、運動を推進してまいります。ぜひ、家庭内に掲示していただき、家族間のあいさつを振り返ってみてください。そして、近所、地域、職場、学校等で気持ち良いあいさつが交わされるように、村全体で運動を盛り上げていきませんか。（文責 半間）

《第7回地域づくり交流会に参加ください》

今年で第7回となる「地域づくり交流会」を実施します。ここで協議されたことを形にしようと、「PR動画コンクール」や「あいさつ運動」が実践に移されました。昨年度は、小学・中学・高校生が参加し、また村外からの参加者もあり、大変盛り上がりました。

アンケートでは、全員が「参加して良かった」と回答していました。記述欄には、交流会の継続を望む声と、協議したことを実践に移すことの大切さを訴える意見がありました。今年度の交流会は次のように行います。誘い合わせてご参加ください。（文責 柏原路）

- 1 日時 11月27日（土）13：30～15：30
- 2 会場 弥彦村役場 大ホール
- 3 内容 第1部 ①あいさつ運動スローガン 表彰式
②弥彦PR動画コンクール 取組報告
③あいさつ運動 取組報告
第2部 ①協議「みんなが楽しめるイベントを企画しよう！」
②発表・まとめ

《公民館講座》

今年度、弥彦村公民館では、10 数年振りに公民館講座を開設しました。内容は、村民の皆さんから興味をもって参加してもらえるように、「村史講座」「やひっ子 子育て講座」「彌彦神社を知ろう講座」の3講座を企画しました。久しぶりの講座の開催に、受講者が集まるか心配されましたが、「村史講座」の3回には100名が、「子育て講座」の2回には36名が、「神社講座」の3回には160名の参加がありました。



グループ協議の様子

「村史講座」は、参加者の約半数を60歳以上の方が占め、高齢者の講座に対する関心の高さが伺われました。1・2回の座学では、参加者アンケートから「理解した」の回答が1回目約5割、2回目約9割で、「楽しかった」の回答が1回目8割、2回目10割でした。1回目の内容が少し難しかったと感じた人が多いようです。それでも、講師の話に真剣に聞き入り、グループ協議で活発に情報交換する姿が見られました。特に、高齢者の方が、知っている情報を伝え、若者が感心して頷いている姿が印象的でした。

「子育て講座」は、「村史講座」と比べると参加者が少なかったです。理由は夜の時間帯が参加しにくいことなどが挙げられます。しかし、アンケートから2回の講座とも参加者全員が「参考になった」「楽しかった」と回答していました。ワークショップ形式で、子育てに関する疑問や心配事、失敗例などを参加者が出し合い、感心したり、安心したりする様子が見られました。講師の話に、「もっと早く聞きたかった」「多くの人に聞いてもらいたい」という声が聞かれました。

「神社講座」は、新潟日報に取り上げられたこともあり、村外の参加者が3割にも上りました。1・2回の座学は、難易度に違いがあり、参加者の理解度に大きな差が出ました。しかし、いずれも「楽しかった」の回答が9割程度で、難易度と楽しさは比例しないことが分かります。グループワークでは、知っている方が情報を提供する場面が多く見られました。

以下に参加者の主な感想を掲載します。

<村史：戦国時代>

- ・実際に行ってみようと思える講義で現地が楽しみ。(3)
- ・謙信・景勝との関係や、彌彦神社とのつながりがあることが分かった。
- ・気軽に参加できるビギナー向けの講座があると、より理解が深まる。(3)

<村史：明治維新頃>

- ・役場職員として、弥彦の歴史を知る機会が少ないので、貴重な話を聞いた。
- ・機会があれば明訓高校や戦時中の弥彦の様子を聞いてみたい。
- ・神社との関わりの根が深い。武家支配より神社支配の方が強いように感じる。
- ・観音寺久左衛門の本を読んだことがあるが、この機会に読み直したい。

<子育て：思春期>

- ・今日から実践していきたい。・もっと話を聞きたかった。・参観日等に聞きたい。
- ・講師や参加者の子育ての悩みやテクニックを知ることができた。
- ・自分の子育てをもっと認めてもいい。
- ・一人娘なので、他のお母さんよりちゃんとしないとという考えが強かったが、話を聞いて、もっとリラックスして、大きな心をもって接していきたい。頑張ります。

- ・今日から少しでも関わり方が変えられる気がした。
- ・良いことも苦しいこともあるので、日々、笑顔で子育てできるといいなと思った。

<子育て：もっとニコニコ>

- ・すぐにできることばかりで、早速実践。
- ・周りの人の子育ての話が聞いて良かった。
- ・分かっているがつつい口出ししてしまう。この繰り返しで毎日反省。現在を見つめ、子どもを信じ、任せ、繰り返し気持ちを受け止めたい。
- ・親が言い過ぎたからと反省。
- ・思春期真ただ中で、終わりのないトンネルの中のような毎日、いずれ終わることが分かりほっとした。出来たことを褒め、同調、繰り返すを言葉でやりたい。
- ・納得できる内容で、関係性の再スタートをしよう。



もっとニコニコ講話

<神社：伝説と伝承>

- ・差別の話が興味深かった。差別は、神仏朝廷への隷属（直属）から生まれた。
- ・もう少し神社に密接な話を聞きたかった。民俗学の勉強に来たわけではない。
- ・伝説等をよく知っているつもりだったが、講師の民俗学を含めた話に興味をもった。
- ・社家、神領民等を知れてよかった。弥彦の町を歩いてみようと思った。
- ・民話に基づく事例、旧跡等、継続していくことが大切だと思う。

<神社：各地との関わり>

- ・彌彦神社を敬愛する熱心な方々と同席でき嬉しい。・参加者の知識が豊富で感激。
- ・一般の人が理解できるポンチ絵があればよかった。
- ・籠神社とのつながりを強調、物部氏系の資料や神々との関係の強調が興味深かった。
- ・参加者で詳しい方がいて、自分ももっと勉強しなければと思った。
- ・県内、県外の彌彦神社に関わる神社視察等できれば幸いです。

<神社：神事と宝物>・・現地学習

- ・彌彦神社を知ろう講座を1年に5回開催を希望。
- ・彌彦神社の歴史や伝説に興味があった。神事や舞楽を大事に伝えてほしい。
- ・学んだことを思い起こしてまた来たい。
- ・ポイントでの実地講義があっても良い。
- ・弥彦村民だが、めったに見ることがないので楽しかった。
- ・宝物殿の案内もしてほしい。
- ・弥彦村民は、もっと誇りをもってもよい。
- ・すばらしい講座。まだ知りたいことが沢山ある。



摂末社前での説明

今年度の公民館講座は、終了となりましたが、参加者からは概ね好評でした。次年度も講座を継続してほしいとの声が多く、計画した公民館としては、嬉しい限りです。

令和4年度は、今年度の反省を生かし、村民の皆様の要望も取り入れ、さらにスケールアップして公民館講座を企画いたします。また、ご意見、ご要望がございましたら、いつでも公民館（TEL 94-4311）にご連絡ください。（文責 堀）

《地域で頑張る人紹介》

～J A越後中央弥彦支店女性部～

今回の頑張る人は、麓二区在住の“鈴木圭子”さんです。鈴木さんは今年の3月に行われたJ A越後中央女性部弥彦支部総会で、新支部長に就任されました。女性部弥彦支部の部員数は現在156名、村内15地区に下部組織があり、その組織に加入し女性部弥彦支部の部員となるとのこと。村内在住の女性であれば、農家でなくとも加入できます。現在、7部会（園芸、かあちゃんの朝市日曜日、農産物加工、手芸、ボランティア、キッチンクラブ、こぶしの会）があり、各部会の活動が活発に行われています。「歴代の支部長さん始め役員の方々が、頑張ってくれたおかげで各行事に部員が集まってくれる。」と話す鈴木さん。各部会の活動内容は以下の通りです。



- ・園芸－野菜の栽培管理や日帰り研修で直売所見学など
- ・かあちゃんの朝市日曜日－5月～11月の日曜日朝7時から朝市に野菜等を出荷
- ・農産物加工－たけのこ缶詰加工、トマトジュース・ケチャップ作りなど
- ・手芸－手芸によるカバンやポーチ作り、干支作りなど
- ・ボランティア－施設ボランティア(桜井の里・やひこの里など)、さくら劇団（老人福祉施設等へ慰問活動、スコップ三味線演奏など）
- ・キッチンクラブ－月1回楽しいキッチンで仲間づくり、旬の地元野菜を使用した献立や各種食材で料理作り
- ・こぶしの会－女性部弥彦支部OG会

毎年、日帰り研修では県内の女性部へ交流訪問に出かけていましたが、ウィルス禍の影響で令和2年度は日帰り研修が中止となりました。そこで、その代わりにハーバリウム講座を開催し、今年は苔玉作りに挑戦しました。女性部弥彦支部は「集まって楽しい」「何か行事を行えば皆が集う」と、部員を通して人と人の輪が広がる組織です。

鈴木さんも職場に勤務していたころは、中々参加できなかったが、退職後に参加し「奥様スクール(J A女性部の全体企画)」で行った軽井沢万平ホテルの旅から女性部にハマっているとのこと。現在も歴代の支部長が協力してくれて参加率も高く、とても楽しい組織です。村民の皆さんも興味のある方は、加入してください。是非、ご連絡をお待ちしています。
(文責 石塚)



ハーバリウム



苔玉

委員長	渡辺 和也 (矢作)	副委員長	柏原 路子 (麓二区)
委員	那須裕美子 (川崎)	河井 昌之 (弥彦中校長)	半間 義之 (矢作)
	石井 亘 (井田)	阿部 朗子 (弥彦)	柏原 貴也 (麓二区)
	石塚 孝也 (矢作)	東樹 薫 (美山)	
事務局	堀 隆行 ・ 徳永 拓実 (教育課)		

※ ご意見、お聞きになりたいことがある方は、近くの委員、もしくは、教育課事務局にお電話ください。(事務局94-4311)